



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/2 (月)	+ 600	▲ 16,900	▲ 16,300	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (2年)	国債補充供給 + 16,000 CP等買入 ▲ 300 成長基盤 ▲ 1,500		米：休場 (レーバーデーの祝日)
9/3 (火)	+ 1,000	▲ 7,000	▲ 6,000				米：製造業PMI (8月)
9/4 (水)	トン	▲ 48,000	▲ 48,000	消費税・法人税・保険場 普通交付税交付金 国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 8,000		米：地区連銀経済報告 (ページブック)
9/5 (木)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				日：高田創日銀審議委員、金融経済懇談会 (石川県金沢市) に出席 日：毎月勤労統計 (7月) 米：ADP雇用統計 (8月)
9/6 (金)	トン	▲ 12,000	▲ 12,000	国債発行 (30年)			米：雇用統計 (8月) 欧：ユーロ圏GDP (2Q、確定値)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比500億円増加の550兆5,800億円から始まった。その後、各種財政資金の支払いや国債買入オペ、流動性供給等の要因により増減し、30日は550兆4,400億円 (速報) まで減少し越月した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.23%近辺、1M~3M物0.30%~0.35%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、9月5日に毎月勤労統計 (7月) の公表、高田日銀審議委員が金融経済懇談会 (石川県金沢市) に出席。海外では9月4日に米地区連銀経済報告 (ページブック)、6日に米雇用統計 (8月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は週初+0.20%~+0.25%のレンジで出合い始め、輪番オペがオファーされた週央は+0.17%まで低下した。取引が月末越えとなる29日は+0.10%~+0.15%を中心に出合いが見られたが、引けには+0.20%近辺まで上昇。3m短国の発行があった週末は+0.20%~+0.25%で取引された。

SC取引は2年450~462回債、5年149~170回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP> 今週の入札発行総額は約2兆5,500億円で、週間償還額の2兆6,800億円を下回った。発行残高は先週末時点の24兆8,954億円から、8月29日時点で24兆7,638億円に減少した。発行市場は食料品、石油製品、不動産業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%台後半での出会いとなった。

来週の償還額は、約8,100億円となっている。発行市場は、月初で案件が少なく、比較的落ち着いたマーケットになると予想する。発行レートは、1M物では0.25%超での出会い、3M超の案件については0.30%台前半~0.30%台後半での出会いが散見されるであろう。

7月30・31日の日銀決定会合での利上げ決定後、初めて実施されたCP等買入オペは8月27日に、予定通り4,000億円でオファーされた。結果は足切りレート0.299% (前回0.226%)、平均落札レート0.344% (同0.246%) と、足切りレート、平均落札レート共に、若干の利上げを織り込んでいた前回買入オペに政策修正の幅を盛り込む形で上昇した。

<TDB>

30日の3M (1253回債) の入札は、最高落札利回り0.1023% (前回債0.1043%)、平均落札利回り0.0946% (前回債0.0974%) となった。来週の入札は、9月6日に3Mが予定されている。